

出水と周辺地域の 自然と歴史・文化遺産



出水南校区ふるさとづくり推進
自然と歴史・文化の会編著

- 出水南校区自治協議会支援事業
- 熊本市駐車場公社支援事業

一ノ井手は新屋敷交番横で大井手から分水し、出水、画図方面の田畑を潤して画図の中ノ瀬付近で無田川に流入する6.5kmの幹線水路です。現在の灌漑面積は農地面積の減少により随分減り54ha(1813年の記録では404町歩(ha))です。詳しくは次項で述べます。

二ノ井手は、新屋敷の熊本市勤労青少年ホームの地点で分水し、田迎町を經由し、旧県道熊本・浜線と並行して南下し、旧天明新川に流入する6.4kmの幹線水路です。現在の灌漑面積は176ha(1813年には338町歩(ha))です。

三ノ井手は森都病院(旧NTT西日本九州病院)の地点で分水し、世安町を經由して、国道3号線と並行して南下し、市営野越団地を通過して天明新川に流入する6.6kmの幹線水路です。現在の灌漑面積は77ha(1813年には377町歩(ha))です。この他にも、1813年の記録では、余水懸かりとして本庄手永30町歩(ha)、田迎手永33町歩(ha)の灌漑面積がありました。



三ノ井手の取水口

4. 一ノ井手を歩いてみよう

一ノ井手の上流は市街地の中 一ノ井手の始まりは新屋敷の交番横の大井手からの取水口です。ここから暫くは市街地の中を通ります。

大井手から取水された一ノ井手は、すぐに産業道路を潜ります。そして蘇峰記念館の横を抜けてマンションや事務所などがある市街地を通ります。この間は明渠(井手に蓋がかぶさっていない状態)です。



新屋敷交番横の一ノ井手の取水口



交通局の電車の車庫の横を通る



白山通りに入る直前

そして商業地区や文教地区を通ります。この間は暗渠(井手に蓋がかぶせてある状態)です。昭和52年に暗渠になったそうです。井手の上は、自転車や歩行者の専用道路になっています。ダイエーの横を抜け、高層マンション、九州学院と交通局の電車の車庫の間を抜けて電車通りを潜ります。さらに鎮西高校・真和高校の横を抜け、熊本大学薬学部の横を抜けて白山通りに出ます。この間に井手をはっきり見ることができるのは1カ所だけです。専用道路に突然樋門が出てきて井手を見ることができます。場所は薬学部と白山通りの中間です。この暗渠の間は、20m間隔で鉄の蓋が被せてあり、井手の補修や掃除などのために、下へ降りられるようになっています。

白山通りから八王寺通り、まだ農地はない 白山通りを潜ると再び井手が見えて、明渠になります。この地域はまだ住宅地です。かつてはこの地域には農地が沢山ありましたが、今では農地はありません。やがて豊肥線を潜り、旧熊本食糧事務所(現在は熊本農政事務所)の横を通過して八王寺通りに出ます。



白山通りを潜ると姿をみせる



豊肥線の踏切を渡ると八王寺通

八王寺通りから出水南、農地が現れ、用水施設が見られる いよいよ出水南に入ってきます。ここも住宅地ですが、周辺に農地があるため、一ノ井手にも農業用水を調節するための施設がみられるようになります。樋門や水を分けるための水路などです。出水6丁目の中程に来て井手の右岸沿いに農地が見られます。さらに井手を下っていくと、亀継橋、長溝橋、前無田橋と続きます。前無田橋の畔には、出水南校区まちづくり推進委員会が作った「一ノ井手」の説明版が立てられています。長い井手の旅の中で初めての説明板です。

さらに下って8丁目に入ると、水田と園芸用のハウスが見られます。そして出水南中学校の前を過ぎると、やがて左手に天神の森がみえます。私たちの先祖が大事にした森です。ここまでくると水田が多数みられますが、最近ではこれが住宅地などに変わろうとしています。西には中央病院やゆめタウンなどが見られます。一ノ井手は東バイパスを潜って画図の重富に入ります。



いよいよ水利施設が出てくる



農地も出てくる



天神森付近を流れる一ノ井手

東バイパスから画図を経て無田川へ注ぐ、農業地帯を通り一ノ井手は終わる 東バイパスを潜ると、そこは画図の重富。広大な水田が広がっています。その先に浜線バイパスとハンズマンの建物がみえます。重富の集落を過ぎてハンズマンの近くで浜線バイパスを潜ります。この辺りになると井手の幅が小さくなったような気がします。さらに進んで旧浜線の下を潜ってすぐ無田川に合流します。一ノ井手の長い旅は終わりです。最後の地点の井手の幅は1mに満たない程度でした。これが農業用水路としての井手の特長です。



画図に入ると広大な水田が広がる



井手の幅は少し狭くなる



最末端、無田川に注ぐ